

第4章

将来像の設定

4-1 水需要予測

今回、平成19年8月の第11回水道拡張事業計画(変更Ⅰ)の策定に際して行った水需要予測をベースに、平成40年度までの長期的な水需要予測を行いました。

(1) 推計方法

■給水人口

給水人口予測では、過去10年間(平成7年度から平成16年度まで)の実績データと国立社会保障・人口問題研究所による推計人口を基に、大規模宅地開発等で見込まれる流入人口や、民営の簡易水道等の編入計画を考慮して予測しました。

■給水量

給水量予測では、過去10年間(平成7年度から平成16年度まで)の実績データを基に、生活用、業務・営業用、工場用などの用途別に、時系列傾向分析や回帰分析による推計手法を用いて予測しました。

(2) 予測結果

■給水人口

行政人口が微増ながら依然増加傾向にあることや、宅地開発による人口流入が見込まれることから、給水人口は平成28年度までは少しずつ増加すると予測していますが、その後は減少傾向に転じるものと予測しています。

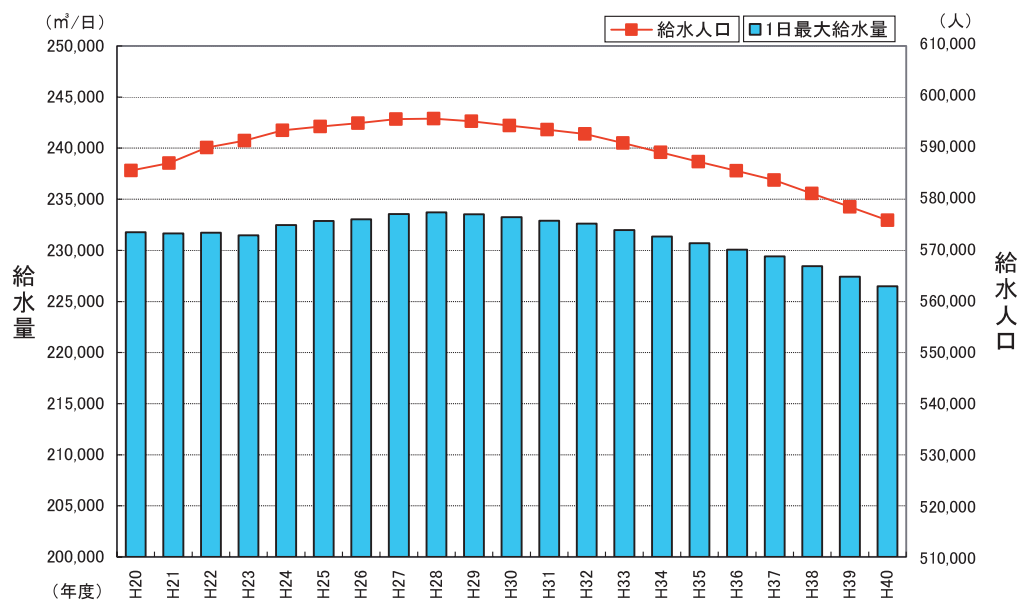
■給水量

給水量に占める割合の大きな生活用水量は、給水人口の増減に連動して推移していくものと予想されます。

また、業務・営業用水量及び工場用水量については、ゆるやかな減少傾向で推移すると予想されます。

この結果、1日最大給水量は、平成28年度まで増加し、その後は減少傾向に転じるものと予測しています。

図 4-1 給水人口及び給水量の予測結果



4-2 基本理念の設定

「安心と信頼の水道 未来まで」

本市の水道事業は、これまで長年にわたり、市勢の発展や市民生活の向上に伴う水需要の増加に的確に対応するため、積極的に事業を推進し、安全で良質な水の安定的な供給に努めてきました。今日では、本市水道の普及率は96%(平成19年度末現在)に達し、市民の皆さまに安全で良質な水を供給できるようになりました。

＜水道を取り巻く環境＞

近年では、先行き不透明な経済情勢、少子高齢化と人口減少時代の到来、官と民、国と地方の役割分担の見直し、団塊世代の大量退職、地球温暖化などの環境問題の顕在化など水道事業を取り巻く環境は大きく変化しています。

＜水道事業の現状＞

「第3章 事業の現状と課題」に提起したように、水道施設の更新需要への対応をはじめとして、施設の耐震化や危機管理の強化、水質管理の強化など、今日的な様々な課題が明らかとなっています。

また、今後は、人口減少社会への移行により、水需要が順調に増加していたこれまでとは異なり、料金収入の減少が見込まれることから、経営基盤の強化が大きな課題となっています。

＜お客さまニーズ＞

多様化しているお客さまのニーズに的確に応えるとともに、水質、施設、経営面など様々な情報を積極的に提供し、水道事業への理解と協力を得ていくことが必要となっています。

このように、本市の水道事業は転換期を迎えようとしています。

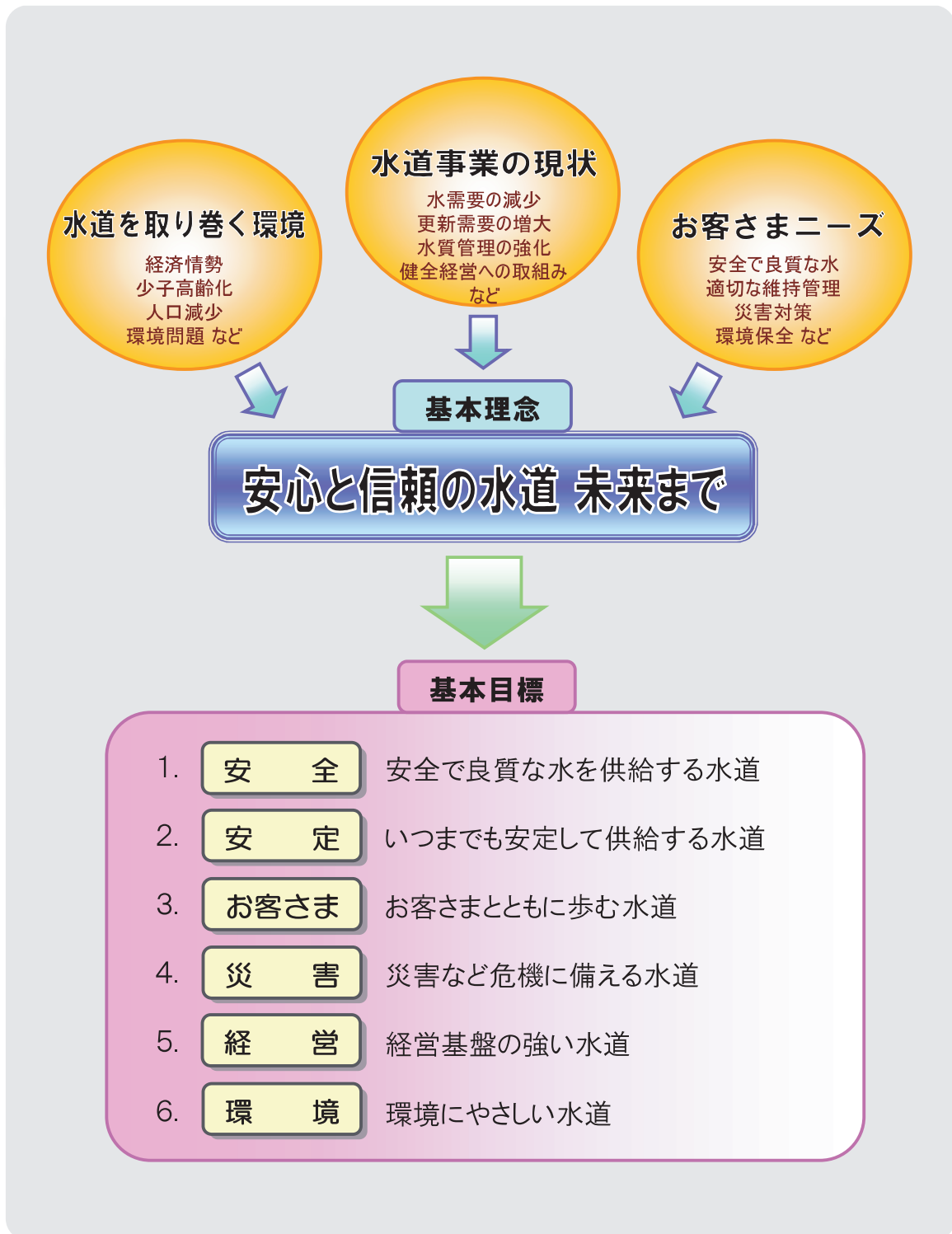
このような中、これらの諸課題に的確に対応し、市民生活や社会活動に不可欠なライフラインである水道を持続し、将来にわたってお客さまに安心して利用され、信頼される水道を築き上げなければなりません。

これらのことを踏まえ、本ビジョンの基本理念を「安心と信頼の水道 未来まで」に設定します。

4-3 基本目標の設定

基本理念「安心と信頼の水道 未来まで」を実現するために、次の目指すべき6つの基本目標を掲げ、施策の展開を図っていきます。

図 4-2 鹿児島市水道ビジョンの概要



安全 安全で良質な水を供給する水道

お客さまの生活や社会経済活動のなかで日々利用されている水が安全な水質に保たれていることは、水道の最も基本的な要件です。今後ともお客さまに安心して水道を利用していただくために、施設の充実を図るとともに、水源から給水栓に至るまで、施設管理と水質管理を徹底して行います。

安定 いつまでも安定して供給する水道

お客さまの生活や社会経済活動のなかで日々利用されている水道がひとたび停止した場合は、深刻で多大な影響を及ぼすことになります。将来にわたり、常時給水する義務を果たすため、老朽化施設の更新など必要な措置を講じていきます。

お客さま お客さまとともに歩む水道

日々の生活に欠かせない水を安心してご使用いただくために、お客さまの声やニーズを的確に把握しながら、常にお客さまの視点に立ったサービスの提供に励み、お客さま満足度のいっそうの向上に努めます。

災害 災害など危機に備える水道

災害、水質事故、濁水、テロ行為など危機の発生に備えるとともに、発生時に的確に対応するために、危機管理体制の強化に努めます。また、大規模な地震が発生した場合でも、被害を最小限に抑えるため、水道施設の耐震化を推進していきます。

経営 経営基盤の強い水道

厳しい経営環境のなか、将来にわたって持続的かつ安定した事業運営を継続するため、中長期的な期間を見据え、計画的かつ効率的な経営を行なうなど、健全な財政状況の堅持に努めます。また、人材育成や技術の継承に取り組み、技術基盤の強化を図ります。

環境 環境にやさしい水道

水道は地球規模での水循環の恩恵に支えられた存在です。このため、地球温暖化などの環境問題には、積極的に取り組んでいく必要があり、資源の有効活用、新エネルギーや省エネルギー機器の導入など環境負荷の低減に取り組みます。